

スタッフ便り

社会のデジタル化に最も貢献したのは IT でも政府でもなく COVID-19 であるといった具合に、一時期、国内外を問わず揶揄されていたのですが、最近はデジタル庁が置かれるなど国内でも急速に ICT 対応の推進が始まったように見えます。同時に、誰かが ICT 化を阻害していたとか、現場向けの技術開発ができていないとか、そもそも必要な所に経済的・人的リソースが割かれていないとか、様々な問題・課題が見えてきたようです。このうち、阻害している「誰か」というのが、力を持った少人数の場合もあれば、しばしば正当な理由なき理不尽な拘りを持った不特定多数であったりするとともに、無責任さを感じざるを得ないことがあります。

何か新しいことを取り入れればよいというわけでは勿論なく、見極めは重要なのですが、自らが期せずして正当な発展を止める側に立っていたりしないかどうか、新しいものを作り出す大学・学校なら特に、気を付けておく必要があるでしょう。国際的に遅れが著しいというデータもある、生徒の ICT 環境とリテラシですが、これらを正していくために、適切な所に適切な人員の配置が望まれます。(後藤英昭)

「SENAC」のスタッフ便りを書くことになった。ところで、「SENAC」って何かの略かなあ？調べてみたら、日本電気(株)と共同開発し、昭和 33 年に公開された当時最大級の電子計算機 SENAC-1 (SENdai Automatic Computer) から名付けたとのことであった。その後昭和 61 年には初代のスーパーコンピュータが導入され、今年 10 月から 8 代目が稼働を開始した。「合計 576 基の VE を搭載する「SX-Aurora TSUBASA」、総理論演算性能約 1.77PFLOPS」と言われても何がなんだか、「すごいんだろうなあ」以外思い浮かばない。当センターの展示室には、SENAC-1 や歴代スパコンのユニット、写真などが展示され見ることができますよ。

私がコンピュータを始めて触った当時をちょっと思い出してみた。「N88」: 最初に出会ったパソコンだった。「フロッピーディスク (FD)」: 128KB/8 インチでふにゃふにゃケースだったのが、1.2MB/3.5 インチのハードケースに進化し感動したなあ。「音響カプラ」: 「ゴー、キーキー」あの音が如何にも頑張っているぞって聞こえた。ああ、懐かしい。もう一度 N88 とカプラを使ってメールを送ってみたいくなった・・・昔をふりかえるとは、年だなあ。(K.M)



SENAC 編集部会

滝沢寛之 水木敬明 後藤英昭 伊藤昭彦
早坂和勝 大泉健治 小野 敏 斉藤くみ子

令和 2 年 10 月発行
編集・発行 東北大学
サイバーサイエンスセンター
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
郵便番号 980-8578
印刷 株式会社 東誠社